

# 2022年2月期 第2四半期 決算説明資料

2021年10月7日

ツインバード工業株式会社  
証券コード：6897

# 2022年2月期 第2四半期決算ハイライト



新型コロナワクチン接種需要に伴う当社FPSC製品の大型受注等により、業績は大きく伸長

財務体質はさらに改善し、今後の事業展開に向けた戦略的な投資余力を十分に確保

売上高

**70.8億円**  
(前年同期比 +35.2%)

親会社株主に帰属する  
四半期純利益

**4.9億円**  
(前年同期比 黒字転換)

売上高  
総利益率

**37.8%**  
(前年同期比 +7.8 pt.)

FPSC事業  
セグメント利益\*

**8.0億円**  
(前年同期比 約31倍)

営業利益

**8.0億円**  
(前年同期比 黒字転換)

家電製品事業  
セグメント利益\*

**4.7億円**  
(前年同期比 +57.8%)

営業利益率

**11.4%**  
(前年同期比 黒字転換)

自己資本比率

**74.4%**  
(前期末比 +12.2 pt.)

\*調整額（全社費用482百万円）を除外

## ■ 第2四半期実績

- 売上高は前年同期比35%の増収、売上総利益率は7.8pt改善し、黒字転換
  - 家電製品事業は戦略的なSKU（商品点数）削減等により、売上総利益率は前年同期比1.9pt上昇
  - SC-DF25WL（新型コロナウイルス感染症ワクチン用ディープフリーザー）について武田薬品工業株式会社向け大型案件の出荷を4月に完了、さらに厚生労働省からの追加受注を7月に出荷し、業績に大きく貢献
- 財務体質は大きく改善し、今後の事業展開に向けた戦略的な投資余力を十分に確保

## ■ 業績予想（2021年7月8日公表の業績予想から変更なし）

- 通期業績予想：大幅な増収増益を予想
  - 下期は減収減益の見通し
    - 前年下期に厚生労働省向け SC-DF25WL 大型案件の収益を計上
    - 通期業績を確保しつつ、ビジネスモデルを次のステージへ変革するため、戦略的投資の実行を優先
      - ①ブランド価値向上、②FPSCのさらなる事業展開、③DXの加速

## ■ 配当予想（2021年4月8日公表の配当予想から変更なし）

- 中間配当は予想どおり 1株当たり3円を支給（支払開始予定日：2021年11月15日）
- 期末配当は、普通配当を9円、創業70周年記念配当を3円の合計1株当たり12円  
年間配当は 1株当たり15円（前期比3円増配）を予想

# 2022年2月期 第2四半期決算概要

# 2022年2月期 第2四半期損益概況



新型コロナワクチン接種に伴う当社FPSC製品の大型受注等が業績に大きく貢献して黒字転換

単位：百万円	2021年度	2020年度		(参考)	
	2Q累計 実績	2Q累計 実績	前年同期比 差額	成長率	2021年度 2Q累計 業績予想
売上高	7,080	5,237	1,842	35.2%	7,370
売上総利益	2,679	1,574	1,104	70.1%	
売上高比	37.8%	30.1%	7.8pt		
販売費及び一般管理費	1,875	1,672	203	12.1%	
売上高比	26.5%	31.9%	-5.4pt		
営業利益又は営業損失	804	△97	901	-	710
売上高比	11.4%	-1.9%	-		9.6%
経常利益又は経常損失	754	△161	916	-	630
四半期純利益又は四半期純損失 (親会社株主帰属分)	492	△120	613	-	460

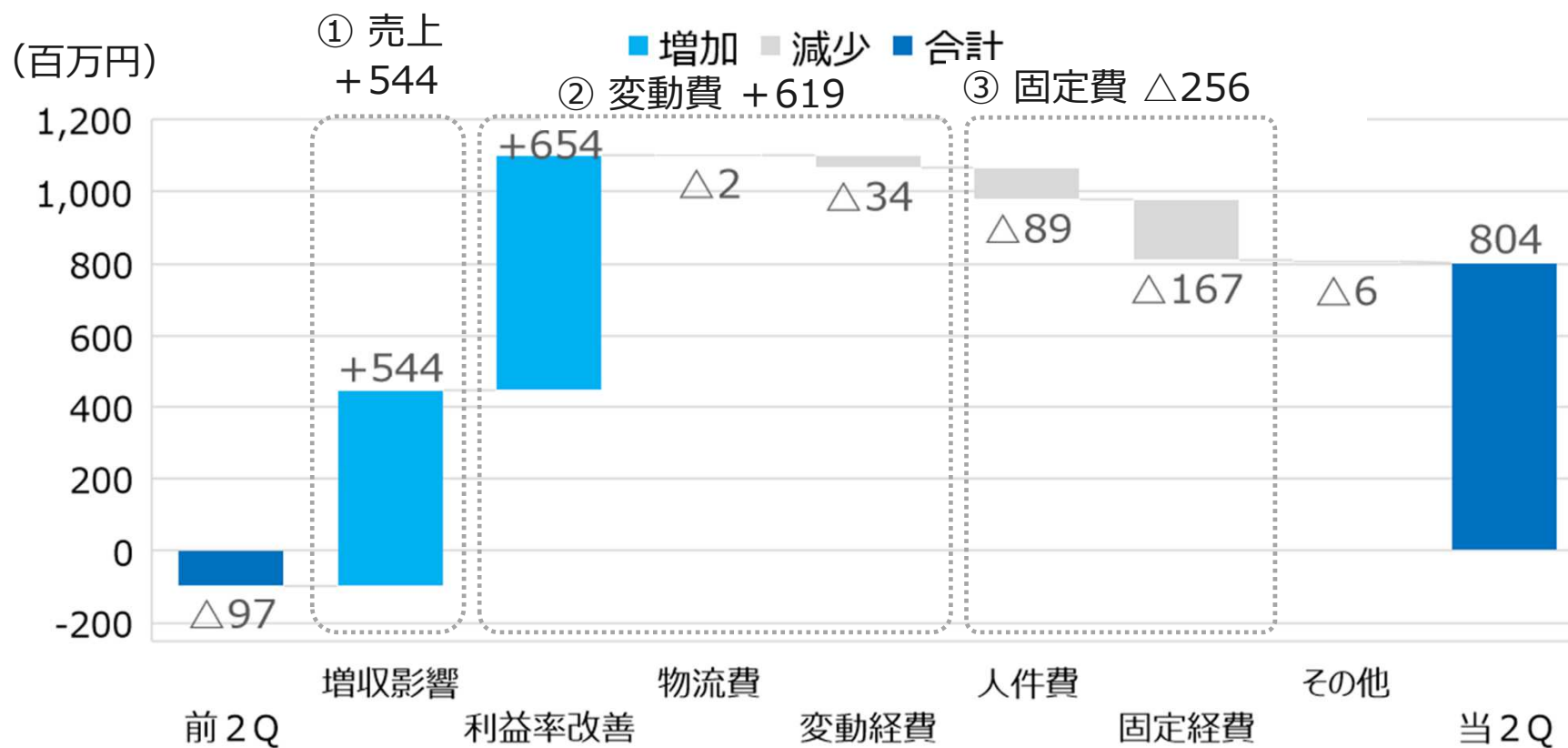
※ 業績予想は2021年7月8日時点の公表値

## 補. 営業利益以下の段階損益

単位：百万円	2021年度 2Q累計	2020年度 2Q累計	差額	主な要因
営業利益（△は損失）	<b>804</b>	△97	901	
営業外収益	<b>23</b>	17	5	(FY20) 受取配当金 5 業務受託料 5 (FY21) 受取配当金 3 業務受託料 2 為替差益 10
営業外費用	<b>72</b>	82	△9	(FY20) 支払利息 10 売上割引 65 為替差損 4 (FY21) 支払利息 7 売上割引 63
経常利益（△は損失）	<b>754</b>	△161	916	
特別利益	<b>0</b>	8	△7	(FY20) 政策保有株式等売却益 8
特別損失	<b>0</b>	0	0	
税引前四半期純利益（△は損失）	<b>754</b>	△153	908	
法人税等	<b>262</b>	△32	294	(FY21) 利益回復に伴い増加
四半期純利益（△は損失）	<b>492</b>	△120	613	

# 営業利益：前年同期比増減要因分析

FPSC事業の大型案件による増収効果・利益率改善、家電製品事業の利益率改善が営業利益増に貢献



# セグメント別 第2四半期業績概況



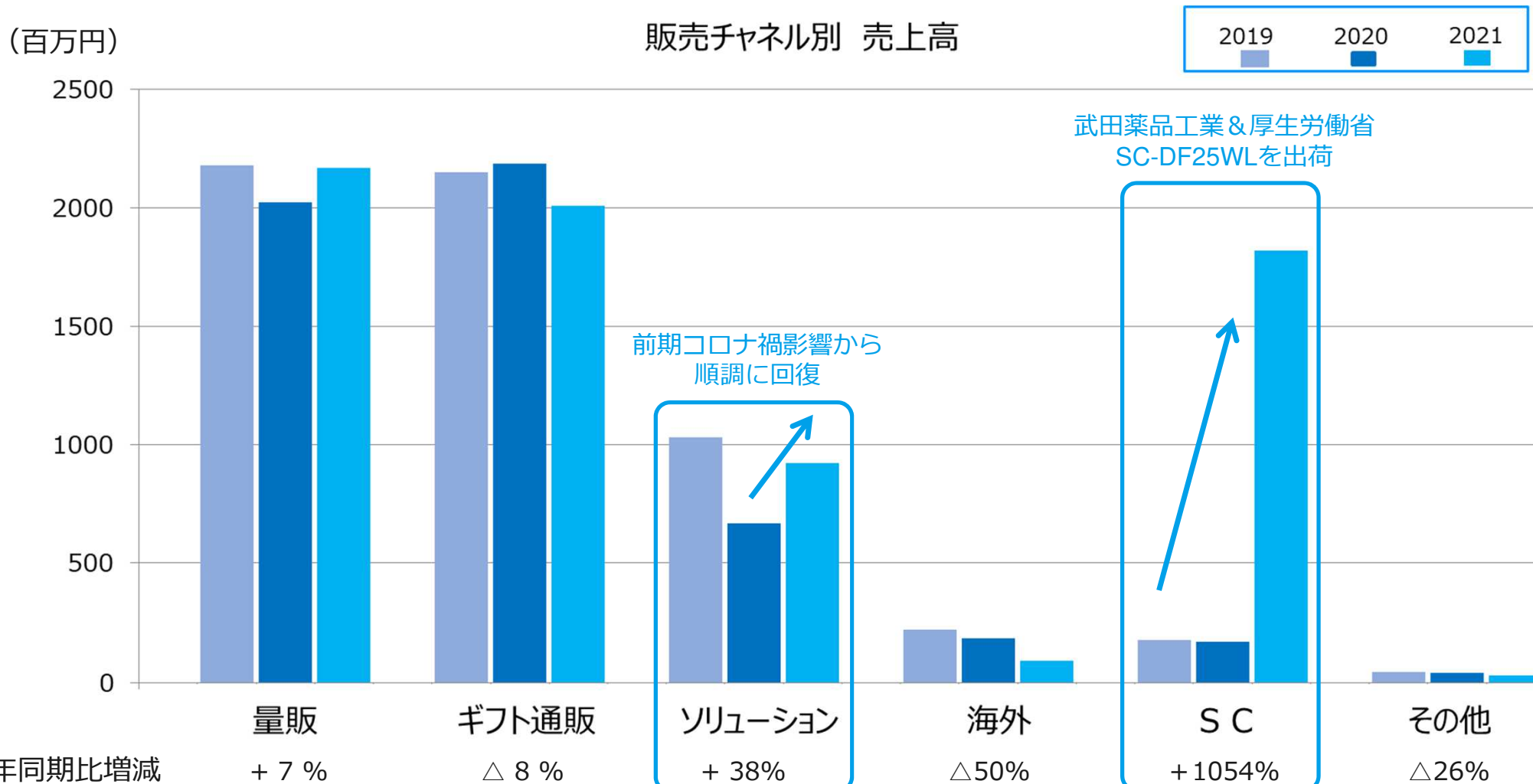
- 家電製品事業
  - 緊急事態宣言の延長や対象地域の拡大などにより、家電量販市場向けの売上が足元で減速
  - 業務用家電製品やOEM製品などのソリューションビジネスが前期コロナ禍から順調に回復
- FPSC事業
  - 武田薬品工業向け SC-DF25WL 大型案件の出荷が完了
  - 厚生労働省向け SC-DF25WL 追加受注の出荷が完了

単位：百万円	売上高				セグメント利益（営業利益）			
	2021年度 上期実績	2020年度 上期実績	前年同期比 差額	前年同期比 成長率	2021年度 上期実績	2020年度 上期実績	前年同期比 差額	前年同期比 成長率
家電製品事業 売上高比	5,262	5,079	183	3.6%	478 9.1%	303 6.0%	175 +3.1pt	57.8%
FPSC事業 売上高比	1,817	157	1,659	約12倍	807 44.4%	25 16.5%	781 +28.0pt	約31倍
調整額					△482	△426	△55	
全社 計 売上高比	7,080	5,237	1,842	35.2%	804 11.4%	△97 -1.9%	901 +13.2pt	-

※当期より全社費用を調整額とし、各セグメント利益から除外しています



# 販売チャネル別 売上高の推移

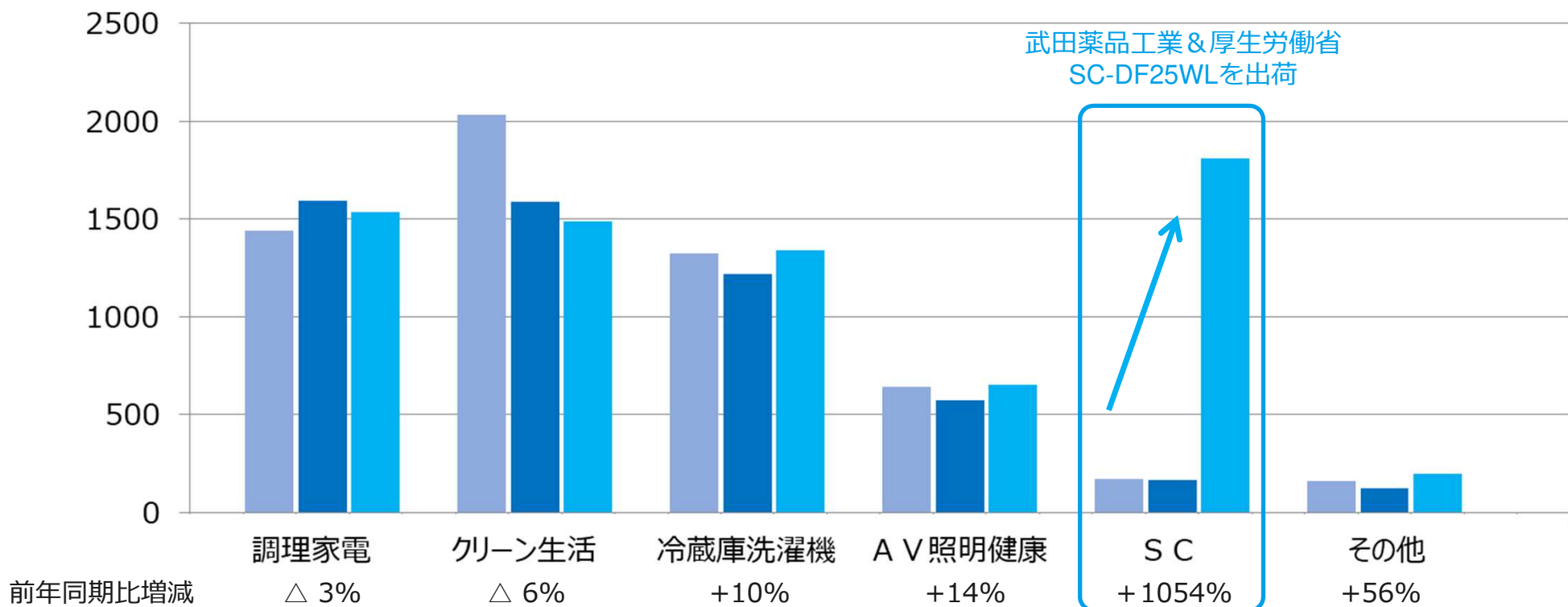


# 商品ジャンル別 売上高の推移

(百万円)

商品ジャンル別 売上高

2019 2020 2021



武田薬品工業&厚生労働省  
SC-DF25WLを出荷



温度ロガー付き  
ディープフリーザー25L  
SC-DF25WL



全自動  
コーヒーマーカー  
CM-D465B



コードレス  
スティック型  
クリーナー  
TC-E263GY



2ドア冷凍冷蔵庫  
HR-F911W



全自動電気洗濯機  
7.0kg  
WM-EC70W

# 連結貸借対照表

総資産は現金及び預金が795百万円の減少、受取手形及び売掛金が1,494百万円の減少等で大きく圧縮  
負債も短期借入金が1,050百万円の減少、長期借入金が376百万円の減少等で大きく圧縮

単位：百万円	2021年度			2020年度			
	2Q末	前期末	増減	2Q末	前期末	増減	
現預金	1,574	2,369	△795	仕入債務	215	451	△236
売上債権	1,483	2,963	△1,480	短期借入金	0	1,050	△1,050
たな卸資産	3,674	2,899	775	長期借入金	1,480	1,856	△376
その他	367	267	99	その他	1,313	1,544	△230
流動資産 計	7,099	8,501	△1,401	負債 合計	3,009	4,902	△1,893
有形固定資産	3,830	3,862	△32	資本金・資本剰余金	5,109	5,093	16
無形固定資産	127	119	7	利益剰余金	3,337	2,942	395
投資その他資産	708	488	220	その他	308	33	275
固定資産 計	4,665	4,470	195	純資産合計	8,755	8,068	686
資産 合計	11,765	12,971	△1,206	負債&純資産合計	11,765	12,971	△1,206

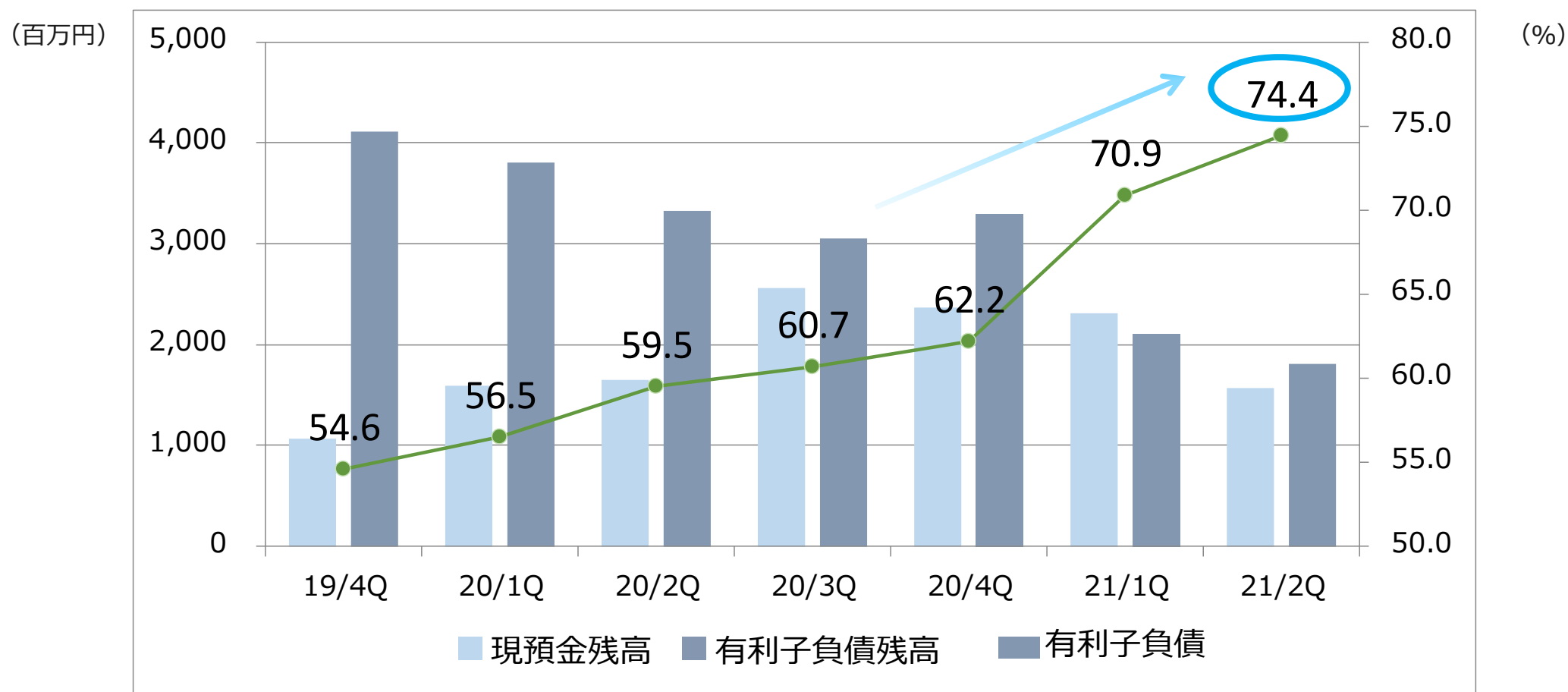
- 2021年度上期において、当社が一部株式を保有するGlobal Cooling, Inc.と米国ナスダック上場会社 BioLife Solutions, Inc.が事業統合
- この事業統合に伴う株式交換により、BioLife Solutions, Inc.の株式を取得し、時価評価をおこなったことなどから、投資有価証券が263百万円及びその他有価証券評価差額金が231百万円増加

【参考】 Global Cooling, Inc.と米国ナスダック上場会社 BioLife Solutions, Inc.の事業統合についての開示情報

- |            |  |
|------------|--|
| 2021年3月10日 | BioLife Solutions to Acquire Stirling Ultracold in an All-Stock Merger<br><a href="https://investors.biolifesolutions.com/2021-03-22-BioLife-Solutions-to-Acquire-Stirling-Ultracold-in-an-All-Stock-Merger">https://investors.biolifesolutions.com/2021-03-22-BioLife-Solutions-to-Acquire-Stirling-Ultracold-in-an-All-Stock-Merger</a>  |
| 2021年5月3日  | BioLife Solutions Announces Closing of Stirling Ultracold Acquisition and Expanded Partnership with Leading Global Biopharma CDMO<br><a href="https://investors.biolifesolutions.com/2021-05-03-BioLife-Solutions-Announces-Closing-of-Stirling-Ultracold-Acquisition-and-Expanded-Partnership-with-Leading-Global-Biopharma-CDMO">https://investors.biolifesolutions.com/2021-05-03-BioLife-Solutions-Announces-Closing-of-Stirling-Ultracold-Acquisition-and-Expanded-Partnership-with-Leading-Global-Biopharma-CDMO</a> |

# 財務安全性の推移（四半期別）

自己資本比率は74.4%（前期末比+12.2pt）と財務体質は大きく改善  
今後の事業展開に向けた戦略的な投資余力を十分に確保



# 連結キャッシュ・フロー計算書



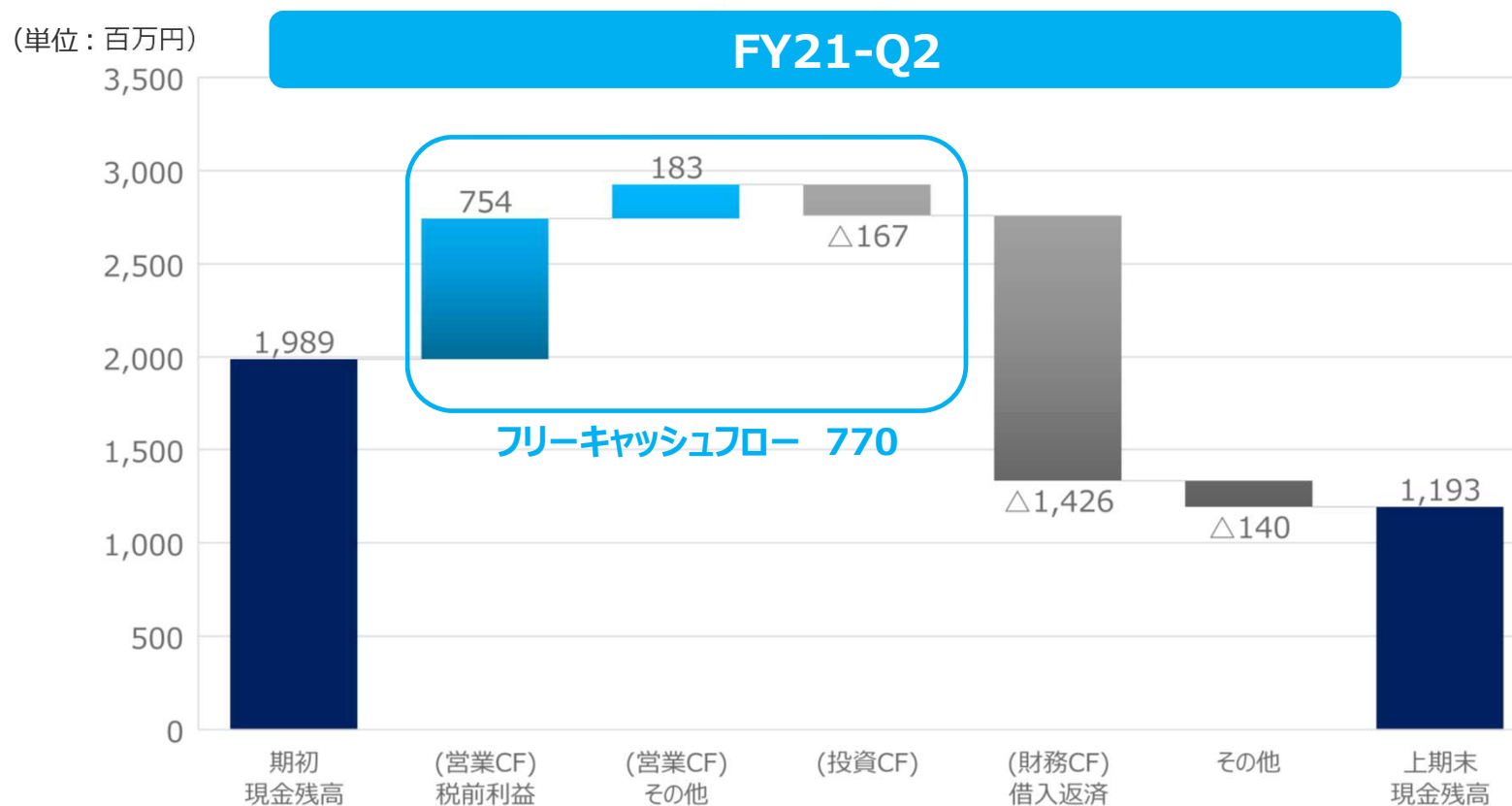
フリーキャッシュフローは 純利益、運転資金良化等で在庫増加をカバーし、770百万円を創出  
 ネット資金は前期末のマイナス（借金）からプラス（預金）に改善し、長短借入金の圧縮も進む

(単位：百万円)

	FY20-Q2	FY21-Q2	前年同期比		FY20-Q2	FY21-Q2	前年同期比
税金等調整前純利益	△153	755	908	短期借入金の増減	△500	△1,050	△550
減価償却費	165	159	△6	長期借入金の増減	△223	△376	△153
売上債権の増減	990	1,482	492	リース債務返済	△65	△51	14
たな卸資産の増減	597	△738	△1,335	配当額の支払	△73	△97	△24
その他資産の増減	7	△70	△77	株式発行収入	0	0	0
仕入債務の増減	△42	△241	△198	その他	0	0	0
その他負債の増減	△202	△332	△130	財務C F	△861	△1,574	△713
その他	△3	△77	△74				
営業C F	1,358	938	△420	現金等の換算差額	△15	7	21
固定資産支出	△89	△173	△84	現金等の増加額	637	△796	△1,434
投資有価証券売買	183	△1	△185	現金等の期首残高	627	1,990	1,363
その他	60	7	△53	現金等の期末残高	1,264	1,193	△71
投資C F	154	△168	△322				

フリーキャッシュフローは 純利益、運転資金良化等で在庫増加をカバーし、770百万円を創出

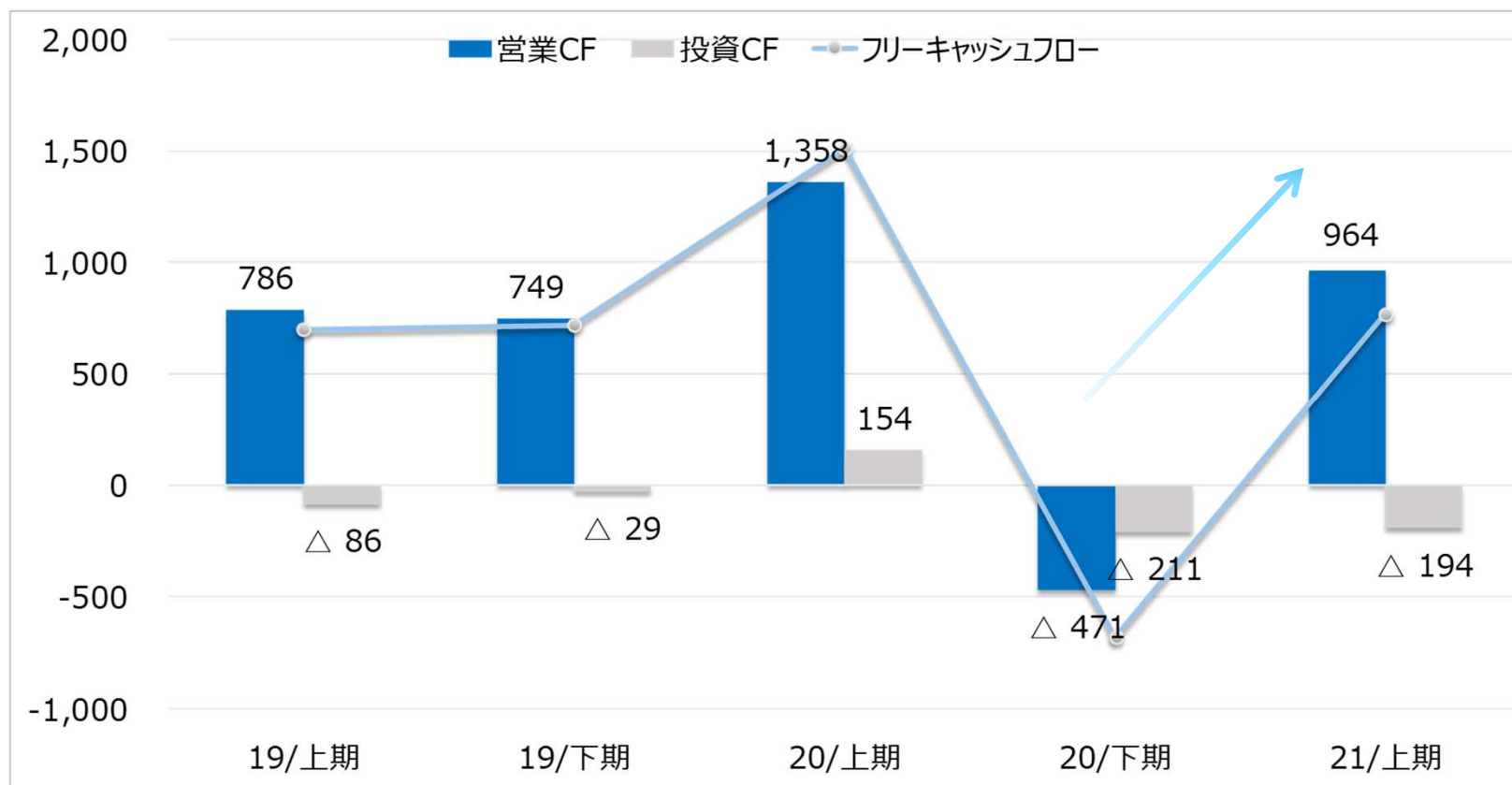
FY21-Q2 キャッシュフロー計算書



## 補. 連結キャッシュ・フローの推移（半期別）

FPSC増産の影響で前年下期は営業CFはマイナス 当年上期に納品完了と売掛金回収で営業CFを獲得

(百万円)

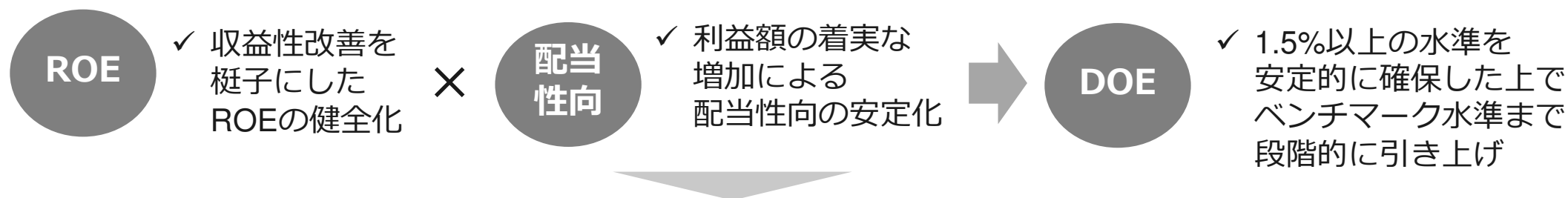




# 2022年2月期 中間配当について

## 【当社株主還元政策の基本的考え方】

- 当社は企業価値の向上により、株主価値を高めることを経営の重要課題と認識しております。業績を向上させ財務体質の強化を図ることで、安定的かつ持続可能な株主還元（配当・自己株式取得）をおこなうことを基本方針としています。
- 配当については、DOE1.5%以上の水準を安定的に確保し、段階的に引き上げることを目指しております
- 一方、自己株式の取得については、資本効率向上などを目的として、経営環境、業績動向、並びにフリー・キャッシュ・フローや財務レバレッジの水準、将来の事業資金需要の見通しなどを総合的に考慮し、適切な時期に機動的に実施します。



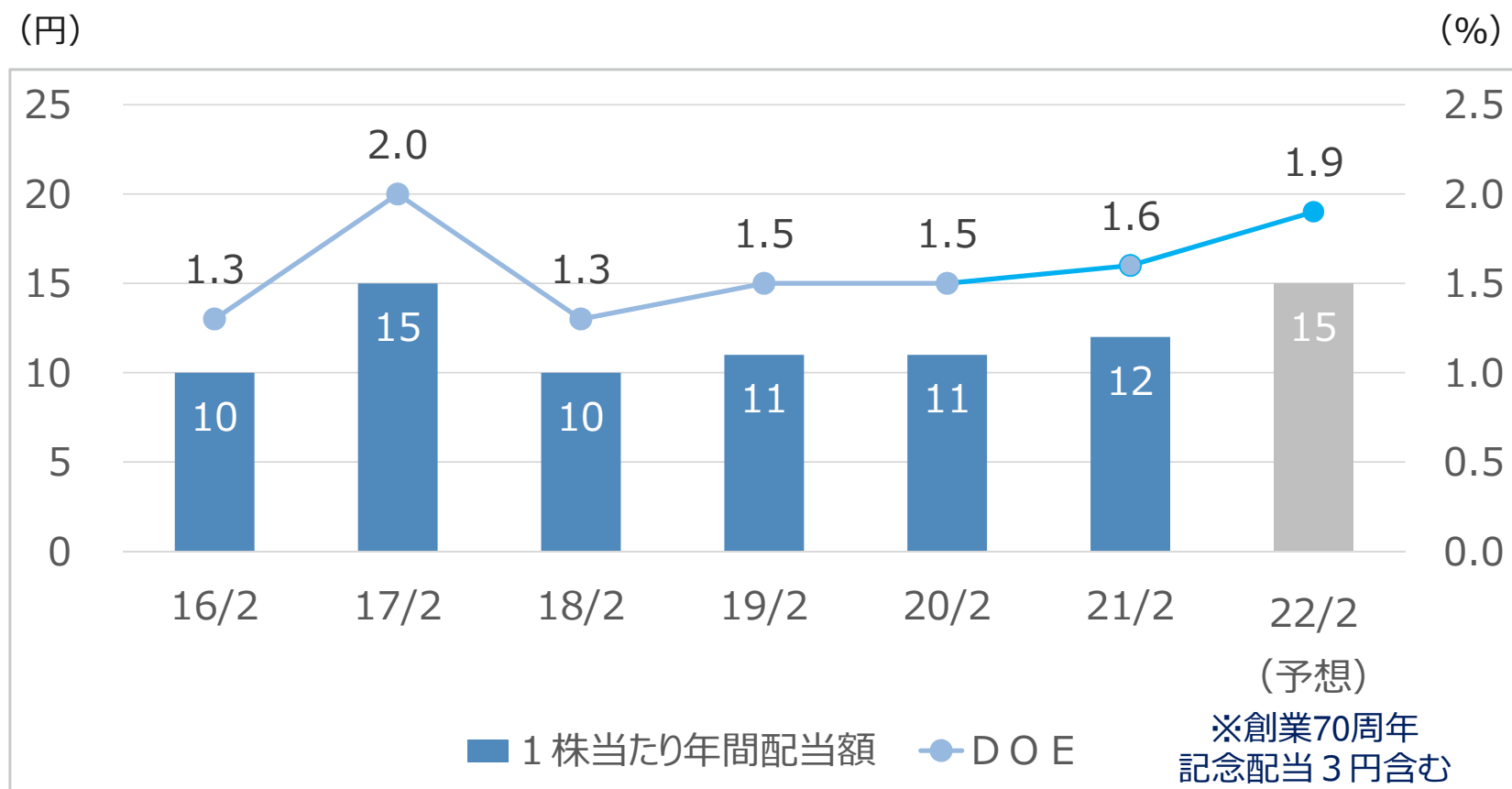
### 第60期（2021年3月1日～2022年2月28日）の中間配当

- |               |                                |
|---------------|--------------------------------|
| 1. 中間配当金      | 当社普通株式 1株当たり 3円                |
| 2. 支払総額       | 32,490,024円（株式数10,830,008株×3円） |
| 3. 配当の効力が生じる日 | 2021年11月15日                    |

## 補. 1株当たり年間配当額、純資産配当率（D O E）

中間配当は予想どおり3円を支給

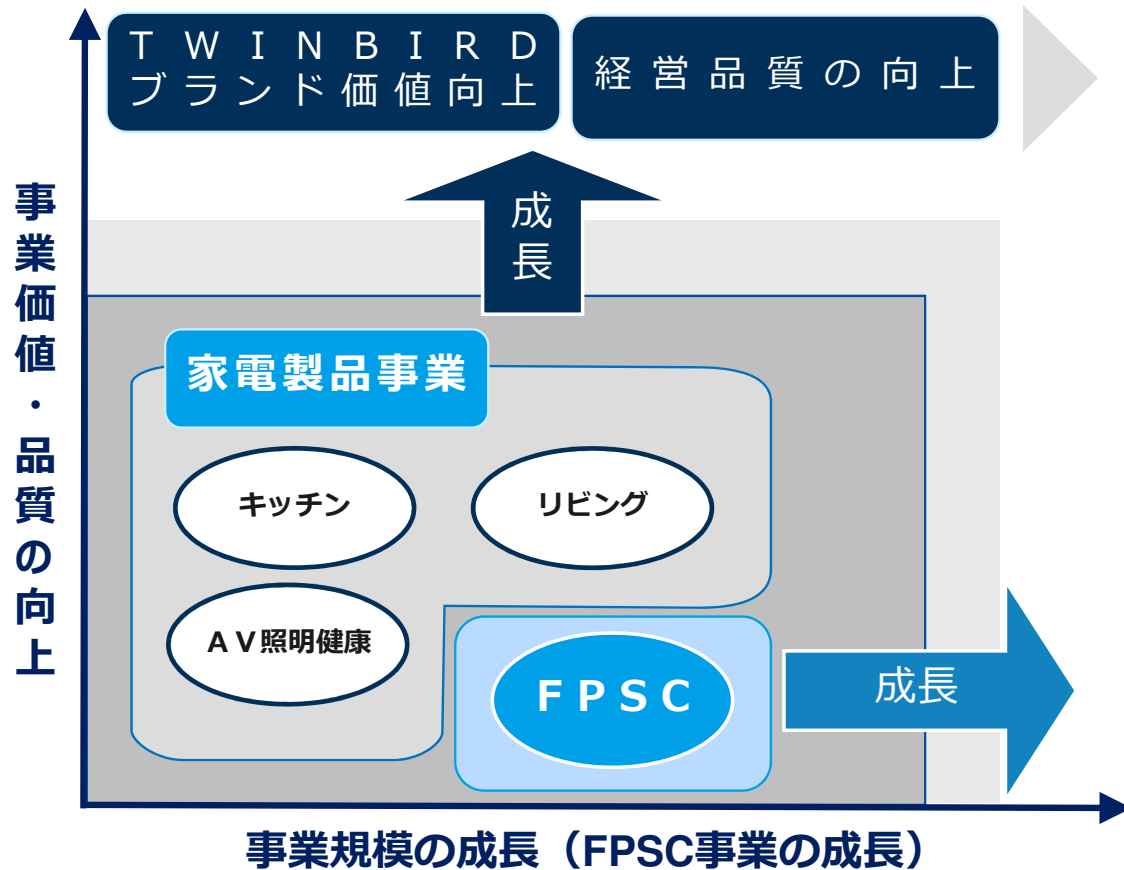
年間配当は創業70周年記念配当3円を加えて15円を予想



# 2021年度業績予想

## 中期経営計画の進捗状況

## 新中期経営計画（2020－2022）



## 2021年度の取組み

### 既存事業のさらなる成長

- 主力事業である家電製品事業においては、収益性の改善及び経営品質の向上を目指す

### 第2の柱となる事業の確立

- FPSC事業の事業化を加速し、新たな成長性・収益性の確保を目指す

## 成長事業への投資 （FPSC事業の成長投資）

### 成長事業の進展

- 製造設備に係る設備投資
- 開発及び製造に係る人材投資

### FPSC事業の拡大

- 医療用ワクチンの輸送用途等需要拡大への取組み
- 医薬分野から他分野への展開

## 2021年度はすべての中期経営計画の財務目標を達成する見込み

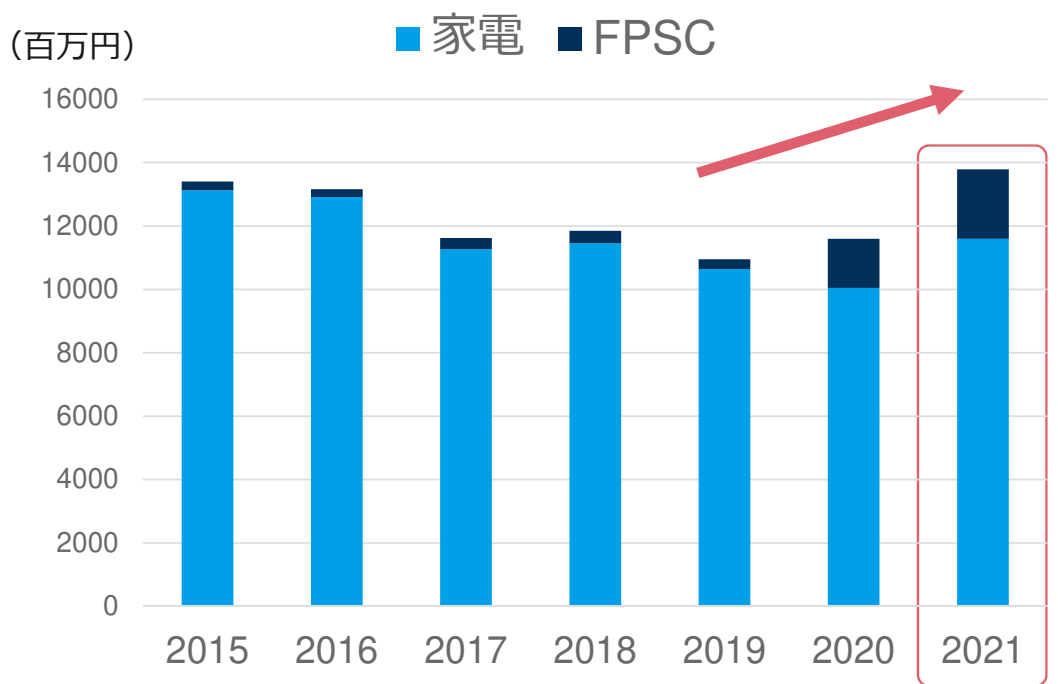
(百万円)	2019年度	2020年度		2021年度		2022年度
	実績	実績	中計目標	業績予想**	中計目標	中計目標
売上高	12,159	12,505	12,200	13,790	12,600	13,400
営業利益	178	608	250	820	350	600
経常利益	66	484	130	670	230	450
当期純利益*	△133	164	60	470	150	300
ROE	△2.1%	2.3%	0.9%	5.6%	2.3%以上	4.6%以上
自己資本比率	54.6%	62.2%	59%程度	74.4%***	60%程度	62%程度

\* 親会社株主帰属

\*\* 2021年7月8日公表

\*\*\* 2021年度第2四半期末実績

売上高はFPSC事業の立ち上がりによって全社で増収傾向に回復に貢献



ワクチン接種需要によるFPSC事業の大幅増収(+41%\*)で

**売上高 2 桁成長 +10.3%\***

\* 2021年度 前年同期比増収率

- FPSC事業は2年間で約19億円の増収貢献
- 家電製品事業も2021年度は新型コロナ禍前の水準まで回復（2021年度前年同期比+15%）

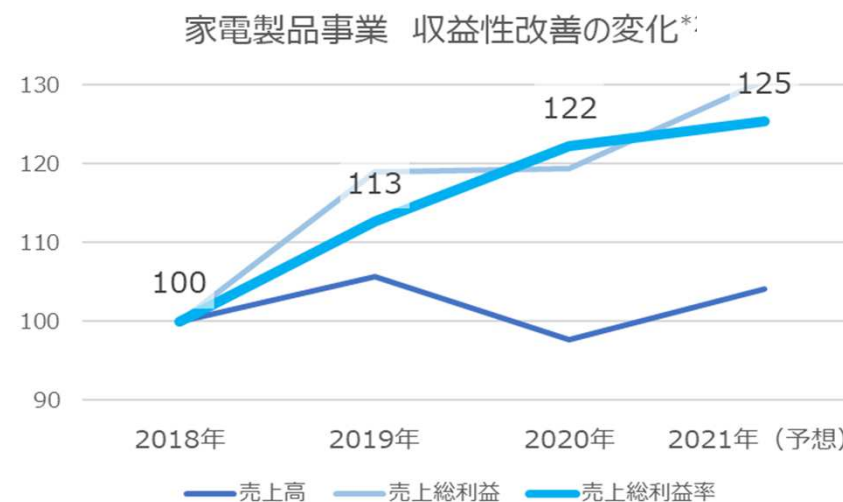
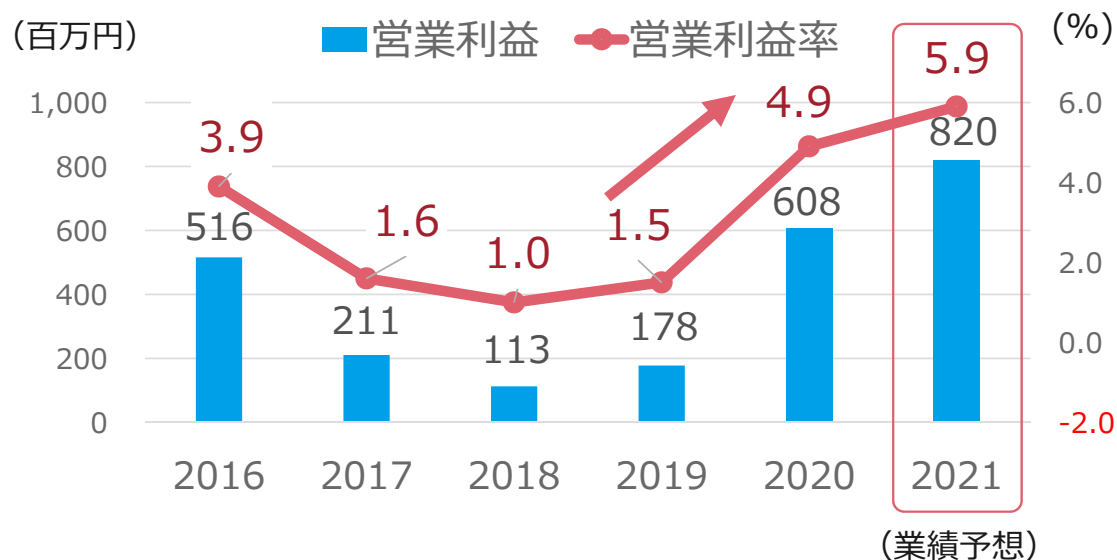
(業績予想)

家電製品事業は着実に収益性回復、FPSC事業の伸長が営業利益増に大きく貢献

家電の収益事業化とFPSC事業の貢献で

## 営業利益率 5.9%

- 家電製品事業での戦略的SKU削減効果
- 収益性の高いFPSC事業の伸長



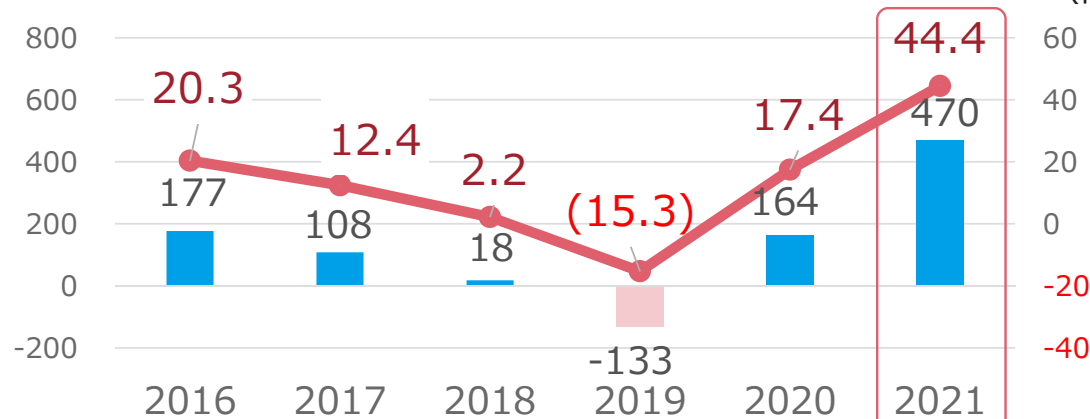
\* : 2018年を100とした場合の指数



2020年度実施の増資後も株主へのリターンは大きく改善

\*親会社株主帰属

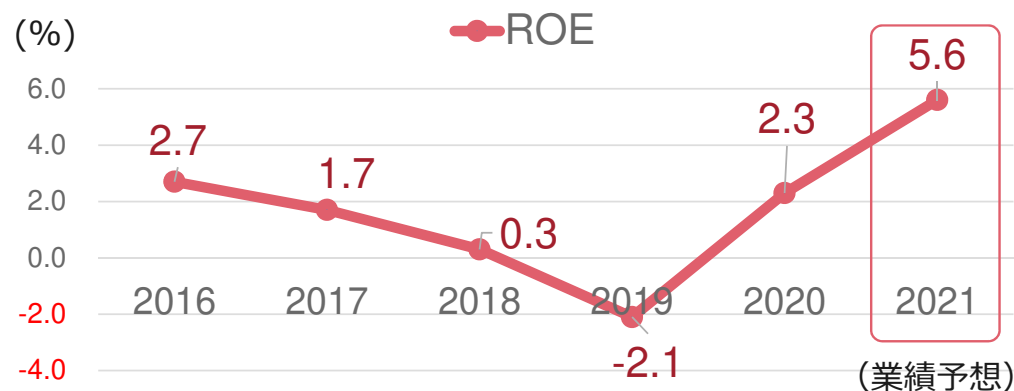
(百万円) ■ 親会社株主に帰属する当期純利益 ● 1株当たり当期純利益 (円)



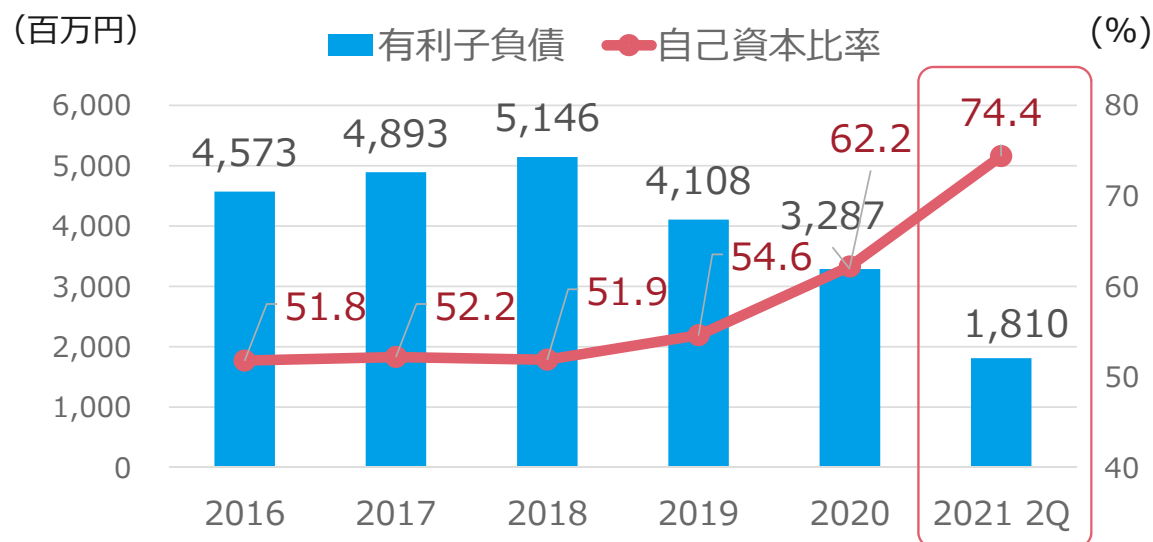
事業収益性と資産効率の改善によって

ROE 5.6%まで回復

- 財務体質強化のための諸施策の効果
- FPSC事業の急成長
- ROEは5.6%まで上昇し、当社が仮定する株主資本コスト6%に近い水準まで急回復



総資産の圧縮効果とエクイティ性資金の調達で、長短借入金を返済  
財務体質は大幅に改善し、戦略的投資余力を確保



資産効率化と増資効果によって大幅上昇

## 自己資本比率 74.4%

(1年半で約20pt.上昇の74.4% (Q2末実績) )

- 事業利益の改善
- 事業リスクに応じた手元流動性水準の調整
- 運転資本の効率化
- 不用資産（土地など）・政策保有株式売却
- エクイティ性資金の調達（増資）

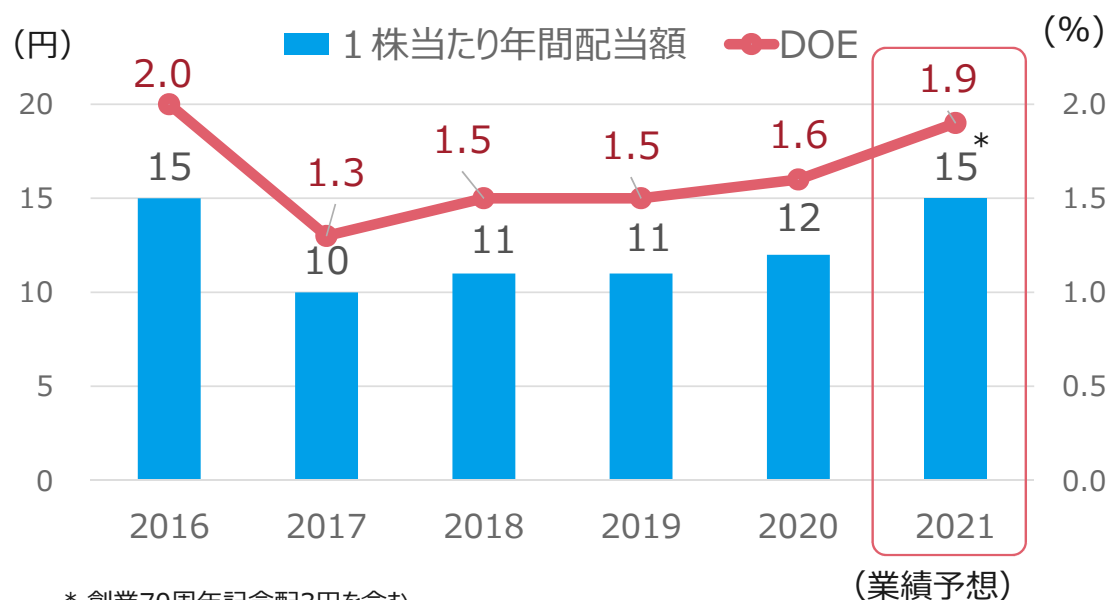
### 中期経営計画（2020-2022）財務ガイドライン

財務安全性の強化

- 事業収益の強化
- 在庫削減・債権債務適正化・不用資産の売却/流動化・政策保有株式の縮減
- 事業資産リスクと資金調達手段のマッチング

✓ 自己資本比率： 60%以上で安定的に維持し、財務健全性を堅持

事業利益の回復と財務体質改善を基に安定的かつ持続可能な株主還元を実施



\* 創業70周年記念配3円を含む

収益性と財務体質改善によって

## 2年連続増配

19年度：11円 → 20年度：12円（1円増配）

20年度：12円 → 21年度：15円（3円増配）

### 中期経営計画（2020-2022）財務ガイドライン

株主還元方針

- 安定的かつ持続可能な株主還元（配当及び自己株式取得）の実施
  - ✓ DOE 1.5%以上を確保・段階的引き上げ + 機動的な自己株式取得の実行

## 2021年度下期・通期の業績予想

通期での業績改善を実現しつつ、下期は事業成長に向けた「戦略投資」を実施

- 下期は減収減益を予想、通期では2桁の売上成長・大幅増益
  - ① 前年下期に厚生労働省向け SC-DF25WL 大型案件の収益を計上
  - ② 通期業績を確保しつつ、下期は戦略的投資を優先し今後に向けた事業変革断行

単位：百万円	下期				通期			
	2021年度 業績予想	前年同期 実績	前年同期比 差額	前年同期比 成長率	2021年度 業績予想	前期 実績	前期比 差額	前期比 成長率
売上高	6,710	7,268	△559	-7.7%	13,790	12,506	1,284	10.3%
営業利益 売上高比	15 0.2%	706 9.7%	△691 -9.5pt	-97.8%	820 5.9%	609 4.9%	211 +1.1pt	34.7%
経常利益 売上高比	-85 -1.3%	646 8.9%	△730 -10.1pt	-113.1%	670 4.9%	484 3.9%	186 +1.0pt	38.4%
当期純利益* 売上高比	-23 -0.3%	285 3.9%	△307 -4.3pt	-108.0%	470 3.4%	164 1.3%	306 +2.1pt	186.5%

\* 親会社株主帰属

## 補. 事業セグメント別2021年度下期の業績予想

### 下期は今後の事業成長に向けた「戦略投資」を優先し、減益予想

- 家電製品事業：ビジネスモデルを次のステージへ変革するため、戦略的投資の実行を優先
- FPSC事業：前年に厚生労働省向け SC-DF25WL 大型案件の収益を計上、今期は現時点で大型案件織り込まず

単位：百万円	売上高				セグメント利益（営業利益）			
	2021年度 下期予想	2020年度 下期実績	前年同期比 差額	前年同期比 成長率	2021年度 下期予想	2020年度 下期実績	前年同期比 差額	前年同期比 成長率
家電製品事業 売上高比	6,337	5,872	464	7.9%	550 8.7%	611 10.4%	△61 -1.7pt	△10.1%
FPSC事業 売上高比	372	1,395	△1,023	△73.3%	116 31.4%	642 46.0%	△525 -14.6pt	△81.8%
調整額					△651	△548	△103	
全社 計 売上高比	6,709	7,268	△558	△7.7%	15 0.2%	706 9.7%	△690 -9.5pt	△97.8%

## 補. 事業セグメント別2021年度通期の業績予想

通期では、家電製品事業・FPSC事業とも2桁の利益成長を予想

単位：百万円	売上高				セグメント利益（営業利益）			
	2021年度 通期予想	2020年度 通期実績	前期比 差額	前期比 成長率	2021年度 通期予想	2020年度 通期実績	前期比 差額	前期比 成長率
家電製品事業 売上高比	11,600	10,952	647	5.9%	1,028 8.9%	915 8.4%	113 +0.5pt	12.4%
FPSC事業 売上高比	2,190	1,553	636	41.0%	924 42.2%	668 43.0%	256 -0.8pt	38.3%
調整額					△1,133	△974	△158	
全社 計 売上高比	13,790	12,505	1,284	10.3%	820 5.9%	608 4.9%	211 +1.1pt	34.7%

下期より戦略的重点領域に集中投資を実施し、ビジネスモデル変革や事業開発を断行

1

## ブランド価値向上 ビジネスモデル変革

✓ 博報堂プロジェクトによる  
戦略的ブランディング投資

- 戦略的メディア露出
- お客様とのタッチポイント強化
- ファン作り（体験価値訴求）
- 高付加価値商品の開発強化

2

## FPSCの革新的技術 による事業展開

✓ より広範なニーズに対応するための  
開発投資・事業化投資

- 製品機能拡充・プラットフォーム強化
- 生産機能強化
- サービス事業化
- 新事業領域のエキスパート採用

3

## DX加速による 業務改革

✓ DXロードマップに基づく、業務領  
域別DX投資・ITインフラ強化投資

- IT環境整備
- 業務改革・システム導入支援
- SaaS使用料
- DX人材採用

**上記 1～3 の詳細説明については10月下旬頃に別途公表予定（決算説明会は10/25予定）**

### 中期経営計画（2020－2022）財務ガイドライン

#### 戦略領域への投資

- 戦略商品開発・ITインフラ再構築・ブランディングといった戦略領域に重点投資
- 戦略的投資事案がある場合は事業特性に適合する資金調達手段を選択し、機動的に投資を実行
  - ✓ 財務健全性維持を前提に、事業特性に応じた適切な資金（基礎営業キャッシュ・フロー、資産リサイクル、新規資金調達）を選択し、活用

# 補足資料



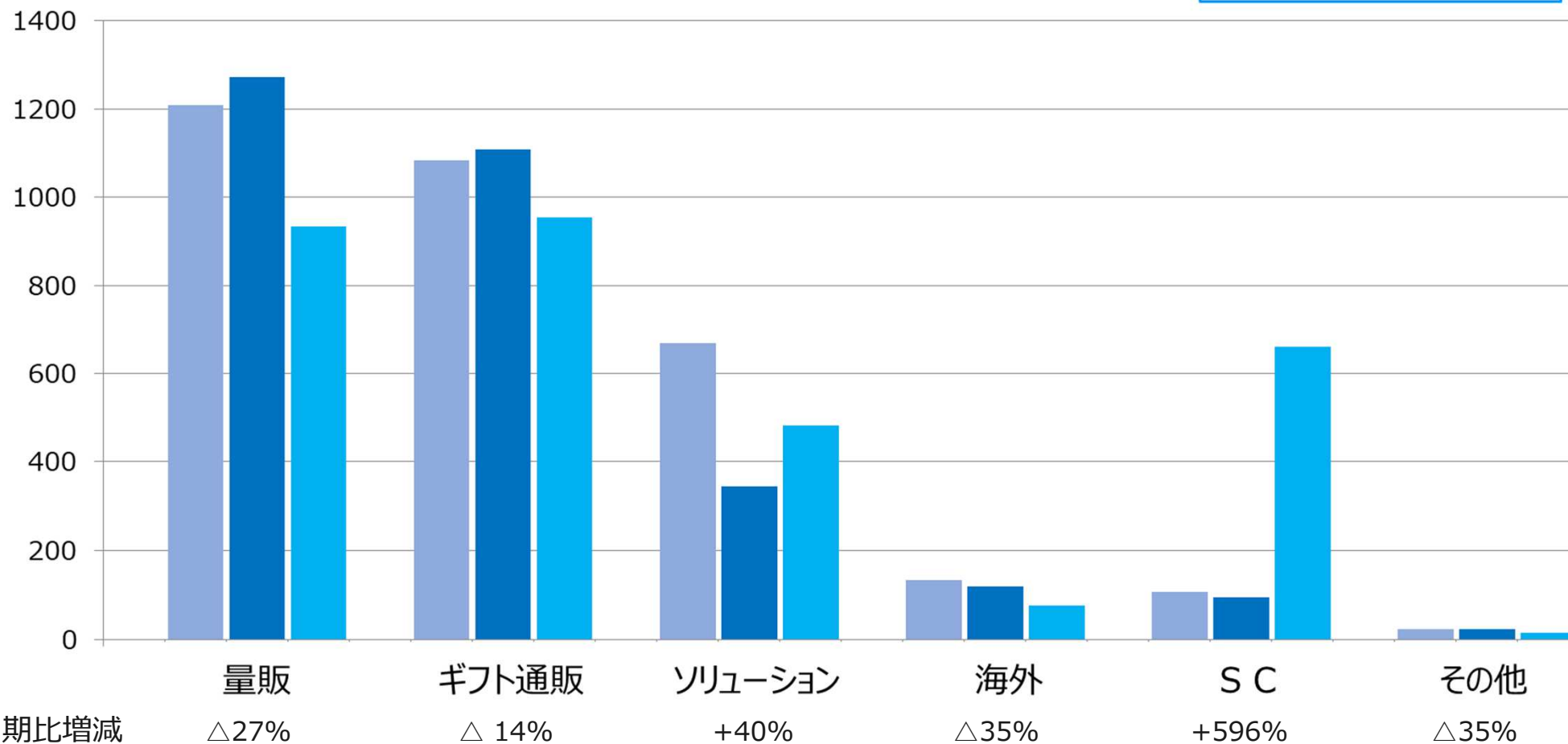
## 第2四半期（3ヶ月）連結損益計算書

単位：百万円	2021年度	2020年度		
	2Q 実績	2Q 実績	前年同期比 差額	成長率
売上高	3,134	2,922	212	7.3%
売上総利益	1,101	880	221	25.2%
売上高比	35.2%	30.1%	5.0pt	
販売費及び一般管理費	964	837	126	15.1%
売上高比	30.8%	28.7%	2.1pt	
営業利益	137	42	95	223.9%
売上高比	4.4%	1.5%	2.9pt	
経常利益	131	20	110	531.0%
四半期純利益 (親会社株主帰属分)	32	16	15	95.0%

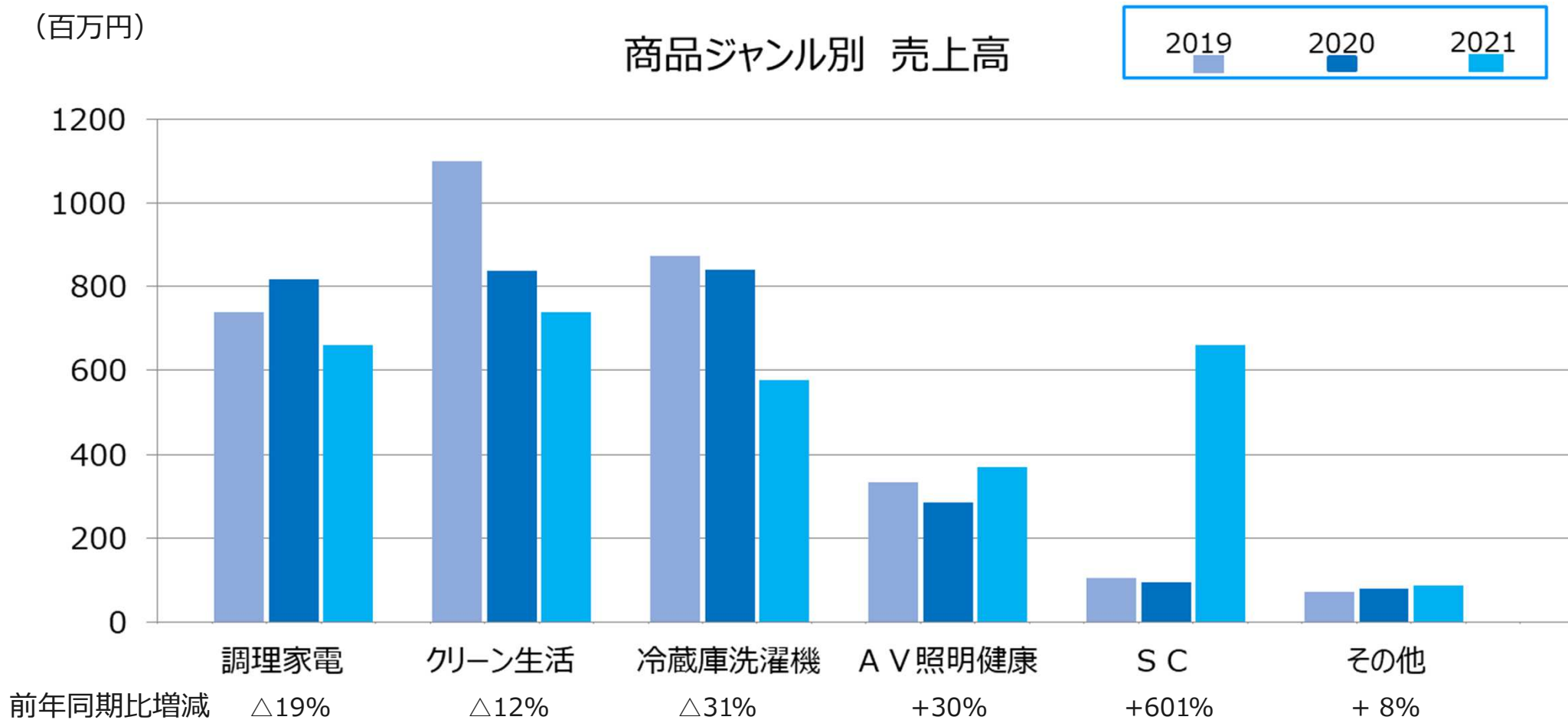
# 販売チャネル別 第2四半期売上高（3ヶ月）

(百万円)

販売チャネル別 売上高

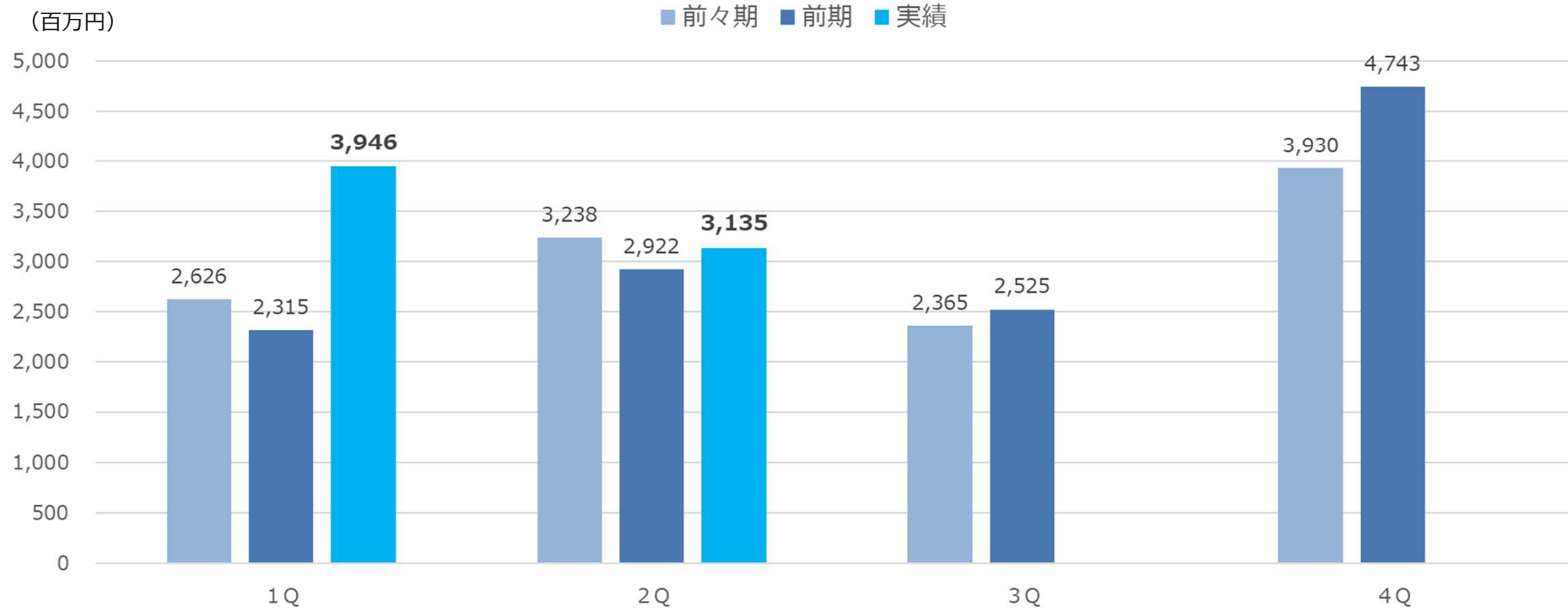


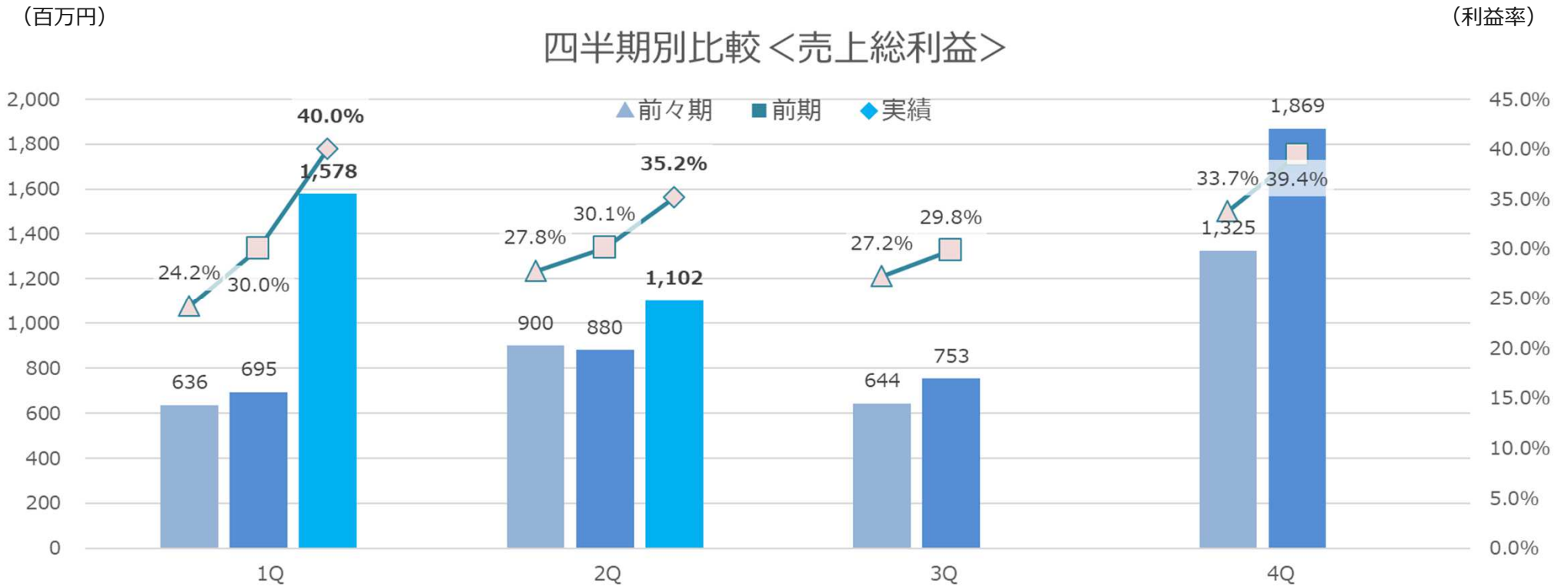
# 商品ジャンル別 第2四半期売上高（3ヶ月）



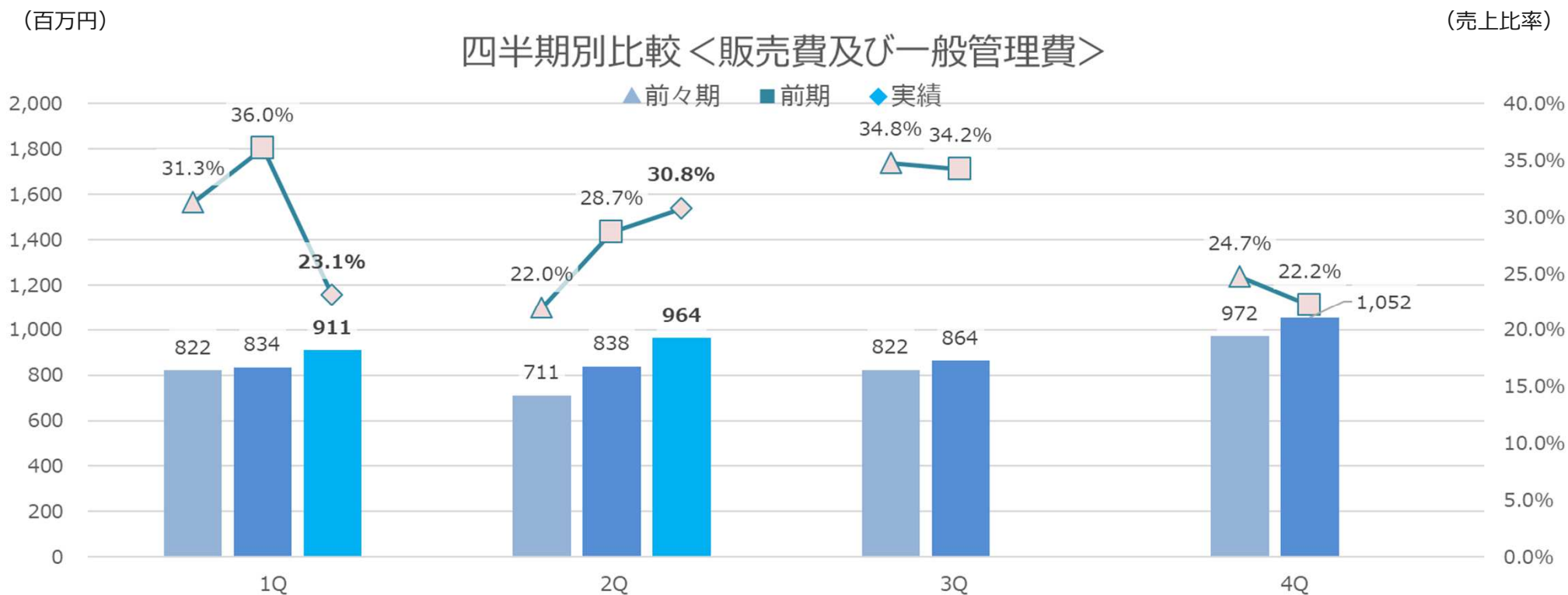
## 四半期別比較＜純売上高＞

■ 前々期 ■ 前期 ■ 実績

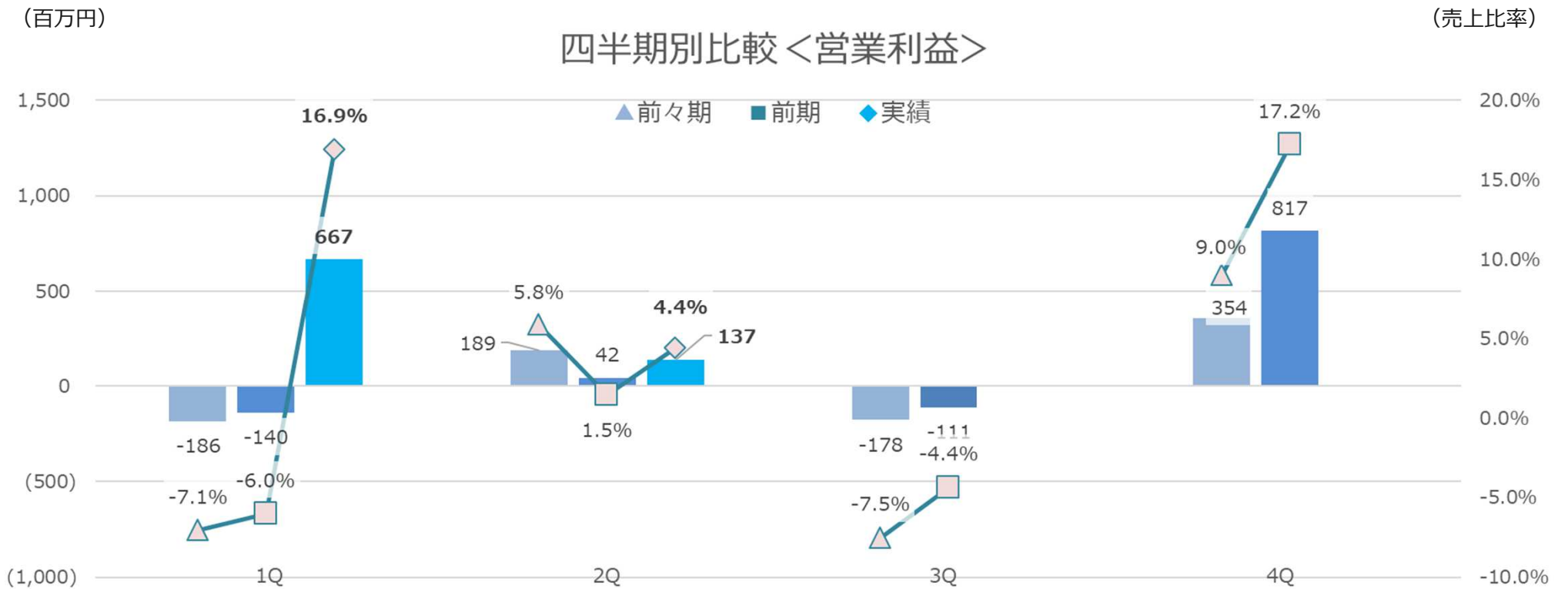




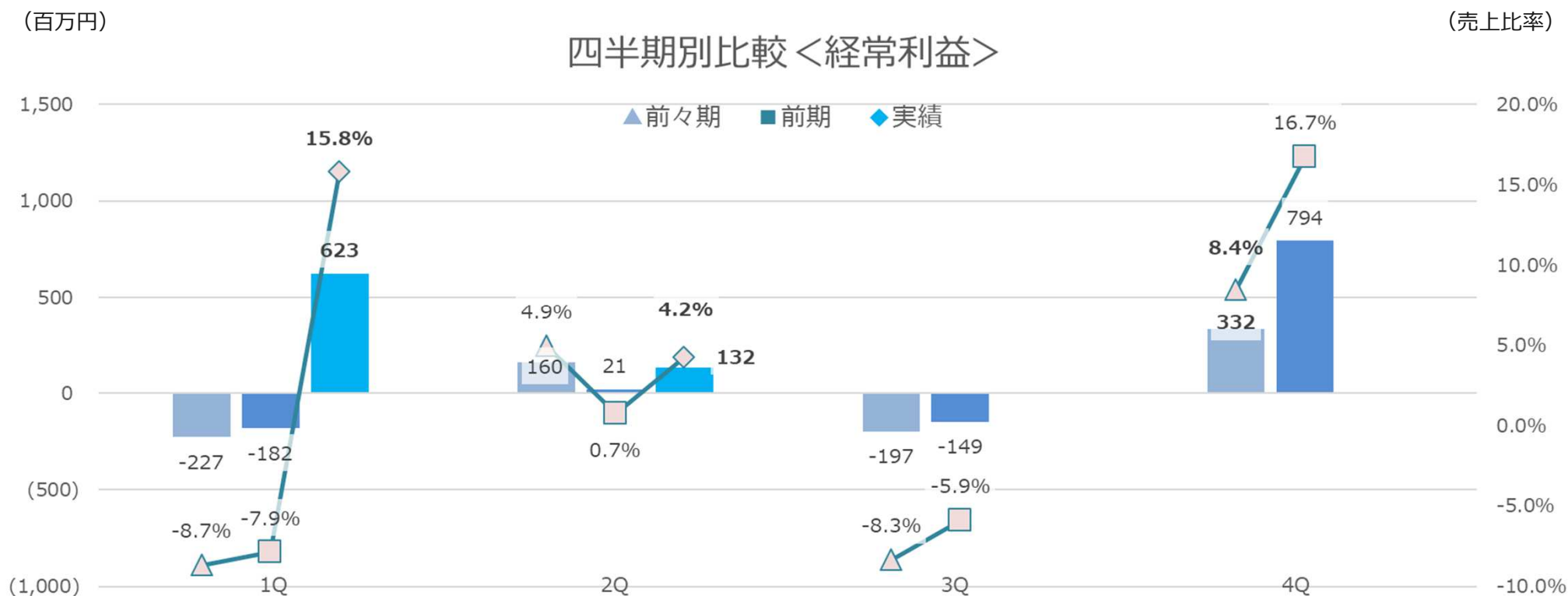
# 四半期別実績数値 販売費及び一般管理費（連結）



# 四半期別実績数値 営業利益（連結）

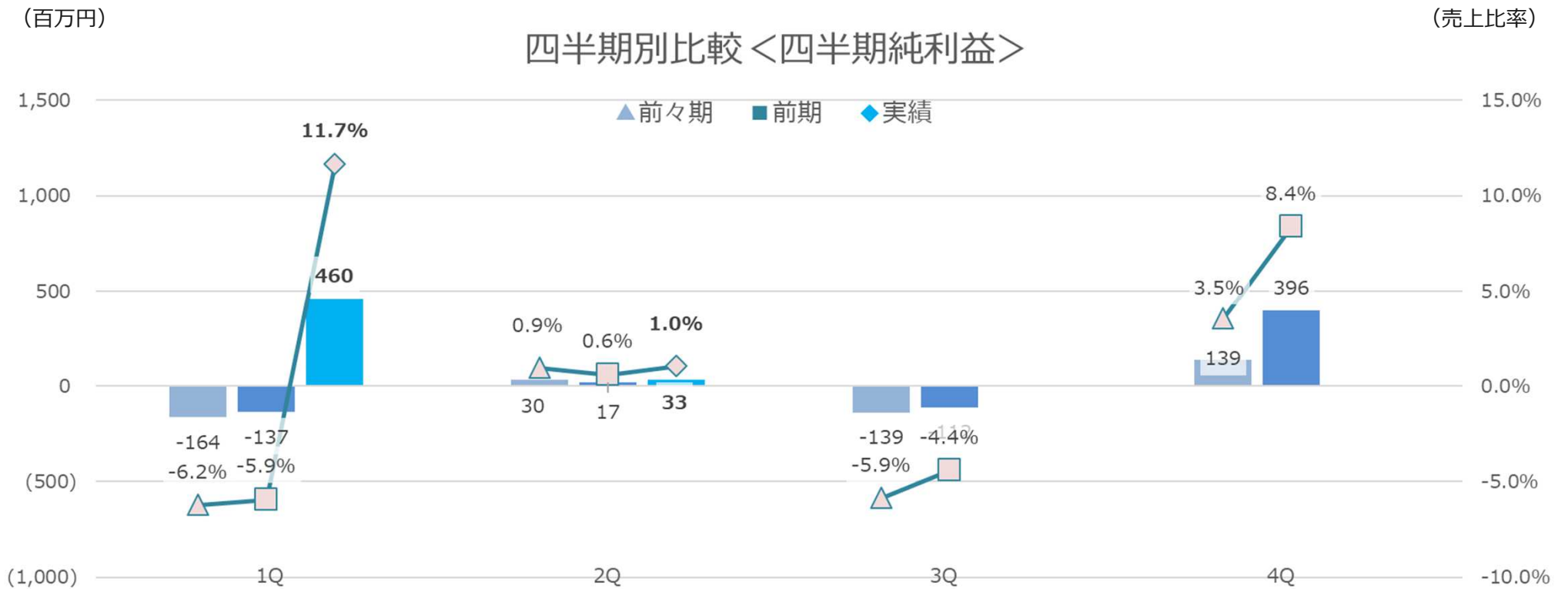


# 四半期別実績数値 経常利益（連結）





# 四半期別実績数値 四半期純利益（連結）





I Rに関するお問い合わせ先

ツインバード工業株式会社 執行役員 経営企画本部 本部長 小林 和則 (TEL : 0256-92-6111)

決算に関するお問い合わせ先

ツインバード工業株式会社 最高財務責任者 執行役員 管理本部 本部長 高木 哲也 (TEL : 0256-92-6111)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する意見や予測等は、資料作成時点で一般に認識されている経済・社会等の情勢及び、当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されており、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更される可能性があります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。

©TWINBIRD CORPORATION All rights reserved.